

令和7年度

「運営に関する計画」
(最終評価)

大阪市立東淀中学校

令和8年3月

大阪府立東淀中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

大阪府教育振興基本計画(教育委員会事務局運営方針)に掲げられた目標の達成に向け、令和7年度末までの中期目標を設定し、取り組んできた。昨年、令和6年3月には中間見直しがされ、特に重点的に取り組むものとし、「安全教育の推進」「いじめへの対応」「不登校の対応」「言語教育・理数教育の充実(思考力、判断力、表現力に育成)」「主体的・対話的で深い学び」「英語教育の強化」「体力・運動能力向上のための取組の推進」「ICTを活用した教育の推進」「働き方改革」及び「教員の資質向上・人材確保」などがあげられた。「安全教育」では、令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律が5類感染症に移行したことから、感染防止対策は継続しながらも、様々な教育活動制限することなく、校内の現状や課題に対して効果的に生徒への支援や改善を実施し、課題解決に向けて学校運営を進めてきた。

以前に比べ、この数年間は授業が成立しない状態や生徒間や対教師への暴力など大きな問題行動は学校内外で減少している。しかしながら、SNSに関連するトラブルをはじめ、価値観の多様化、問題の複雑化する中で、解決が困難であるケースも増加している。また、生徒や保護者に認識にも差が生じ、「いじめ」事象が発生した際には早期発見早期措置を行うが、加害生徒とその保護者が「悪ふざけの延長」と主張し、指導に対し、納得をしないケースも増加している。そのような状況の中、「いじめ」の防止について指導を継続しているが、一部の生徒や保護者の意識の定着が厳しく、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」のアンケートに対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を82%以上にするという目標を達成できなかった。結果は79%とR4とR5の80%を下回った。学年別では2年生が82%、3年生が81%であったが、1年生が76%と特に低く、生徒間トラブルも1年生が多かった。「授業中まじめに学習に取り組んでいる」の質問では、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は42%であり、R4の50%、R5の48%を下回った。学年別では1年生が32%、2年生が45%、3年生が51%であった。「どちらかといえば、そう思う。」も含めると肯定的な意見としては87%であり、R4の89%やR5の93%、を下回っている。また、「学校に行くのが楽しい。」との質問に肯定的に答える割合は、84%とし、R4の83%は上回っているが、R5の86%を下回った。

この数年間、授業規律をはじめ、生徒の意識は、少しずつ向上してきたが、昨年度は伸び悩んだ感がある。学年別では全体的に1年生(令和7年度の2年生)に課題が多くあったが、粘り強い指導の成果も見えてきていることから今後の改善に期待がかかる。

不登校生徒も依然として大阪府平均に比べ高い状態にある。しかし、R6より「対応教室(ひがよどステップ教室)」を設置し、段階的に継続して、生徒個人のアセスメントを行い、外部関係機関と連携しながら、少しずつ教室に戻れるようになっている生徒も増加している。また、新たな不登校生徒が増加しないように、事前防止につながる仲間づくりを推進し、「それぞれの立場を思いやれる学級になっている。」において肯定的な意見が83%とR5の85%を下回るがR1からと比較すると改善されてきており、高い数値は維持している。

学力面においては、令和6年度の全国学力・学習状況調査では平均正答率が大阪府に対

し、国語が 92.9%、数学が 99.0%となっている。大阪中学生チャレンジテストの結果からは 1 年生の平均正答率は大阪府に対し、国語は 94.9%、数学は 84.9%、英語は 90.2%であった。大阪市チャレンジテスト plus の平均正答率は大阪市に対し、社会は 92.0%、理科は 84.2%であった。2 年生の平均正答率が大阪府に対し、国語は 89.0%、社会は 87.3%、数学は 89.2%、理科は 79.9%、英語は 81.3%であった。3 年生の国語は対府比で 97.1% (対市比 97%)。また、同一学年としても令和 5 年度より約 3 %の向上。社会は対府比で 103.4% (対市比 104%)。また、同一学年でも約 1%の向上。数学は対府比で 97.7% (対市比 98%)。同一学年では 100%であり、約 2%の減少。理科 (C 問題) は対府比では 97.5% (対市比 98%)。同一学年では 100%であり、約 2%の減少。英語は対府比では 90.7% (対市比 90%)。同一学年では 92%であり、約 1%の減少。得点分布が大阪府平均と比較すると、10~30 点の割合が多いことから、引き続き基礎基本学力の定着を目標とする。これまで、生徒の学習状況に応じた学習教材の作成やキメの細かい指導や放課後やテスト前、長期休業期間の学習会の推進を継続し、自学自習の習慣化の定着を目標にしてきた。また、個別最適な学習を推進するため、デジタルドリルやアプリを活用した家庭学習にもつなげていきたい。さらに、学力に課題がある生徒の割合が多いことから、今年度から、年度目標達成に向けた取り組み内容に 9 教科が基本・基礎学力の定着を目標に「誰一人取り残さない学力の向上」としての取組と指標を設定した。

3 つの最重要目標の中で「学びを支える教育環境の充実」においては、R6 に【新規設定項目】として「授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が (ただし、学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く)、年間授業日の 60%以上にする。」は 2 月末時点で 2.3%と目標を大きく下回っている。校内生徒アンケートにおいても「授業や学級活動などで、パソコン・プロジェクターなどの ICT 機器を積極的に利用している」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合は 51%と前年度より 3%下回っている。学年別では 1 年が 43%、2 年が 60%、3 年が 50%と学年での差が大きい。これまで外国語教育の中長期的な対策を最大の課題として、外国語教育における小中連携を発展させ、校内でも英語教育に力を注いできた。依然として課題は改善されず、今年度においても、これまでの取り組みを維持しつつ、授業を見直し、「わかる」授業の推進により、基礎学力の定着と個に応じた学力向上を推進していく。それには、学力向上に向けて自学自習の習慣を身に付けさせたい。さらに、考える力と応用力を伸ばし自らの課題解決に向けて成長させたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○令和 7 年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 85%以上とする。

R4 : 83%⇒R5 : 86%⇒R6 : 83%⇒**R7 : 88%** 【達成】

○令和 7 年度末の校内生徒アンケートにおいて「自分には良いところがありますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上とする

R4 : 75%⇒R5 : 81%⇒R6 : 79%⇒**R7 : 81%** 【達成】

○令和7年度の全国学力・学習状況調査において「将来の夢や目標を持っていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を70%以上とする

R4 : 69%⇒R5 : 65%⇒R6 : 60%⇒**R7 : 70%** 【達成】

○令和7年度末の校内調査において前年度不登校生徒の改善の割合[※]を毎年増加させる。

※大阪市教育振興基本計画の不登校への対応より抜粋

前年度不登校であった生徒のうち、不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど総合的な判断により、不登校の状態が改善されたとする人数を把握

1 出席日数の増

2 ICTの活用等による、本人・保護者と学校がつながる回数の増

3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。

R4 : 33.3%⇒R5 : 82%⇒R6 : 87.6%⇒R7 : **90.6%** 【達成】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度の全国学力・学習状況調査において平均正答率の対全国比を国語・数学とも95%以上とする。

国語=R4 : 87%⇒R5 : 87%⇒R6 : 93%⇒**R7 : 88%** 【未達成】

数学=R4 : 86%⇒R5 : 80%⇒R6 : 99%⇒**R7 : 81%** 【未達成】

○令和7年度の大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を45%以上とする。

R4 : 38.5⇒R5 : 37.9⇒R6 : 43.5⇒**R7 : 41.9** 【未達成】

○令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において体力合計点の平均を男女とも全国平均以上とする。

男子=R4 : 39.59⇒R5 : 39.36⇒R6 : 40.72⇒**R7 : 42.01** 【未達成】

全国男子=R4 : 41.04⇒R5 : 41.32⇒R6 : 41.86⇒R7 : 42.20

女子=R4 : 47.32⇒R5 : 43.84⇒R6 : 44.70⇒**R7 : 43.25** 【未達成】

全国女子=R4 : 47.42⇒R5 : 47.22⇒R6 : 47.37⇒R7 : 47.58

【学びを支える教育環境の充実】

○令和7年度末の校内生徒アンケートにおいて「授業や学級活動などで、パソコン・プロジェクターなどのICT機器を積極的に利用している」に対して肯定的に回答する生徒の割合を85%以上とする。

R4 : 86%⇒R5 : 93%⇒R6 : 88%⇒**R7 : 92%** 【達成】

(学年別内訳_1年 : 88%、2年 : 93%、3年 : 97%)

○令和7年度末の保護者アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」の項目についての肯定的回答率を毎年増加させる。

R4 : 75% → R5 : 83% → R6 : 84% → **R7 : 80%** 【未達成】

(学年別内訳_1年 : 72%、2年 : 86%、3年 : 83%)

○令和7年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている」に対して肯定的に回答する生徒の割合を30%以上とする。

R4 : 27% → R5 : 27% → R28% → **R7 : 27%** 【未達成】

(学年別内訳_1年 : 24%、2年 : 24%、3年 : 35%)

○令和7年度末において教員の勤務時間の上限に関する基準2^{*}を満たす教職員の割合を80%以上とする。

※学校園における働き方改革推進プランより

基準2 1年間の時間外勤務時間が720時間以下、時間外勤務時間が45時間を超える月数6以下、時間外勤務時間が100時間を超える月数0、直近2～6か月の時間外勤務時間の平均が80時間を超える月数0、を全て満たす。

R4 (3月時点) : 64% → R5 (3月時点) : 60.42% → R6 (3月時点) : 61.22%

⇒ **R7 (1月時点) : 62.75%** 【未達成】

2 中期目標の達成に向けた年度目標

安全・安心な教育の推進】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も、肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。

【前年度 78%】(1年 : 72%、2年 : 81%、3年 : 81%)

○年度末の校内調査における、不登校の在籍比率を前年度より減少させる。

【前年度 12.1%】

○年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる

【前年度 87.6%】

学校園の年度目標

○年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校は、生徒の健康や安全に配慮している」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度55%より増加させる。

【前年度 55%】(1年 : 54%、2年 : 52%、3年 : 58%)

○年度末の校内生徒アンケートにおいて「将来に向けて進路やよりよい生き方について考える機会が多い」に対して肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。

【前年度 80%】(1年 : 72%、2年 : 82%、3年 : 86%)

○年度末の校内アンケートにおいて「相手の立場を思いやる集団」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度より増加させる。

【前年度 保護者21% 生徒35%】

(保護者 1年 : 17%、2年 : 23%、3年 : 24%)

(生徒 1年 : 24%、2年 : 28%、3年 : 49%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を38%以上にする。

【前年度 38%】

○中学校チャレンジテストにおける、国語の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2%向上させる。

【前年度 3年 97% 2年 89%】

○中学校チャレンジテストにおける、数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2%向上させる。

【前年度 3年 98% 2年 89%】

○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を前年度より増加する。

【前年度 54%】

学校園の年度目標

○大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を前年度以上とする。

【前年度 43.5%】

○3年生における英検3級を取得している生徒の割合を前年度以上に増加させる。

【前年度 35.3%】

○年度末の校内生徒アンケートにおいて「自主的・主体的に活動していると感じる」の質問項目に対して肯定的に回答する生徒の割合を前年度より増加させる。

【前年度 93%】

○令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の平均を大阪市平均よりも向上させる。

【R6 大阪市平均 男子 41.10 女子 47.51】

【学びを支える教育環境の充実】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が（ただし、学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）、年間授業日の60%以上にする。

【前年度 2.3%（2月まで）】

○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を前年度より増加にする。

【前年度 84%】

学校園の年度目標

○年度末の生徒アンケートでの「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている。」の項目についての肯定的に回答する生徒の割合を前年度よりも向上させる。

【前年度 28%】

○年度末の校内生徒アンケートにおいて「授業や学級活動などで、パソコン・プロジェクターなどのICT機器を積極的に利用している」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を前年度よりも向上させる。

【前年度 51%】

○令和7年度末の保護者アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」に対して肯定的に回答する割合を前年度よりも向上させる。

【前年度 84%】

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度の学校運営全体を通じての成果

最重要目標1 安全・安心な教育の推進の中期目標である【基本的な方向1 安全安心な教育環境の実現】においては校内アンケートで「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答する生徒の割合は88%であり、「自分には良いところがありますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合は81%となり、両方ともに目標を達成した。

【基本的な方向2 豊かな心の育成】では、全国学力・学習状況調査において「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に肯定的に回答する生徒の割合が70%と目標を達成した。前年度不登校生徒の改善の割合も毎年増加と目標を達成できている。

年度目標では、校内アンケートにおいて「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対し、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合は84%と目標を達成した。不登校の在籍比率においては14.3%と前年度より増加したが、前年度不登校生徒の改善の割合については90.6%と改善した。

学校園の年度目標において、校内生徒アンケートでは「学校は、生徒の健康や安全に配慮している」との質問に対し、最も肯定的な「そう思う」と回答する割合は66%、「将来に向けて進路やよりよい生き方について考える機会が多い」に肯定的に回答は83%、「相手の立場を思いやる集団」に対し、最も肯定的な「そう思う」と回答する割合も保護者27%と生徒42%と全て目標を達成した。

最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上においては【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】については全国学力・学習状況調査において平均正答率の対全国比を国語が88%、数学が81%でありともに未達成であった。大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）41.9%と未達成であった。全国体力・運動能力、運動習慣等調査において体力合計点の平均は男子が42.01、女子が43.25とともに未達成であった。

年度目標では校内アンケートにおいて、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対し、最も肯定的な「当てはまる」が49%であり、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対し最も肯定的な「好き」との回答は59%とともに目標を達成した。中学校チャレンジテストにおける、国語と数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較した結果は、いずれの学年も前年度より下回った。

学校園の年度目標では大阪市英語力調査は中間目標と同様。3年生の英検3級取得割合も31.6%は目標に未達成。校内生徒アンケートにおいて「自主的・主体的に活動していると感じる」に対して肯定的回答の生徒割合は92%と達成。全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の平均を大阪市（中間目標は全国）よりも向上させるは男子

が**42.01**と達成し、女子が**43.25**と未達成であった。

最重要目標3 学びを支える教育環境の充実の【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】を目標として、ICT機器の活用を推進してきた。校内生徒アンケートにおいて「授業や学級活動などで、パソコン・プロジェクターなどのICT機器を積極的に利用している」に肯定的に回答する生徒の割合は**92%**と目標達成。【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】においては「学校園における働き方改革推進プラン」の『基準2』を満たせなかった。

【基本的な方向8 生涯学習の支援】においては校内生徒アンケートにおいて「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている」に肯定的に回答する生徒の割合達成することができなかった。【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】においては保護者対象校内アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」において肯定的回答率を毎年増加させることができなかった。

年度目標では「授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が（ただし、学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）、年間授業日の50%以上に達成できなかった。年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を前年度より増加にすることができた。**学校園の年度目標**は上記の中間目標と同様。

目標達成できなかった項目の関する課題

不登校の在籍比率については全校生徒671名（1月末時点）で96名であり、**14.4%**となっている。内訳では、「特に問題がないが、やる気が出ない」の理由が45名と46.8%が怠学傾向にある。家庭にも課題のあるケースが多く、小学校時よりの不登校も多い、また、転入生も課題を抱える生徒の比率が高く、転入前に在籍している学校でも不登校であったケースも多い。

学力に課題のある生徒も多い。そのため、基礎的・基本的な学力の定着を目標に個に応じた教材作成などに取り組んできている。しかし、「振り返り」や「学びなおし」に取り組みたいが履修をしなければならないため十分な時間を授業では確保が厳しい。

運動に関しても部活動は活発に行っているが、所属していない生徒との差が大きい。特に女子に関しては、積極的に粘り強く取り組むことができない生徒が多い。

学習者用端末の活用については、端末を自宅に忘れてきたり、充電を忘れてきたり、授業中に教員の指示に従わない生徒が多い。また、欠席や遅刻の生徒も多いことから、学習者用端末の利活用の数値は高くない。生活指導的な面も影響が大きいので、積極的に学習活動に取り組む姿勢の育成も並行して進めていきたい。

「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている」に関しては学校司書や学校元気アップ支援事業のボランティアの方々と協力して様々な取り組みなどを行っている。しかし生徒在籍数が671名（1月時点）と多いため、特に国語などの授業で活用することが厳しい。また、デジタル書物の普及で本に関心を持つ生徒が少ない。

保護者対象校内アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」において肯定的回答率を毎年増加させることができなかったことについては、前期（7月実施）の校内アンケートでは**86%**と目標達成できていた。しかし、教員の個人端末使用

に制限がかかるなど、ホームページにおいて保護者が興味関心を持つ内容を維持できなくなったことが原因であると思われる。令和8年度は学校保管用デジタルカメラを数台購入し、改善を進めていきたい。

成果を伸ばし、課題を改善するための今後の取り組み

最重要目標1 安全・安心な教育の推進の【基本的な方向1 安全安心な教育環境の実現】の達成のため、生徒たちが「学校に行くのは楽しい」と感じ、「自分には良いところがある」という自己肯定感育成を目標にし、【基本的な方向2 豊かな心の育成】のため、キャリア教育を充実させ、「将来の夢や目標」を自ら課題を設定し、解決できる能力の育成に取り組んできたことを継続したい。また、授業が成立しない状態や生徒間や対教師への暴力など大きな問題行動はこの数年は減少している。しかし、生徒本人や保護者の理解が価値観の多様化により難しく、また SNS に関連するトラブルなど複雑化がされた問題事象が頻繁に発生している。例として「暴力」や「いじめ」等の生徒間トラブルに対しても、加害生徒とその保護者が問題自体を軽視し、深くとらえないケースが多い。これまでのように教員の粘り強い指導や個人ではなく組織としての対応を積み重ねる事で生徒や保護者の意識が徐々に改善していきたい。それは怠学傾向にある不登校生徒にも同様である。

「登校したいが厳しい」という生徒に関しては、R6より設置した「対応教室（ひがよどステップ教室）」への登校から段階的に、少しずつ教室に戻れるようになっている生徒も増加しており、学校への登校が厳しい生徒に対しては、教員が家庭訪問等で関係をつくりながら、学校生活に円滑に戻れるように学習者用端末でオンライン授業や学習アプリを活用して学力保障を行っている。また、学校外の「教育支援センター（新大阪）」や民間の「放課後デイ」や「フリースクール」と連携している。家庭に課題がある場合は「こども相談センター」や「区役所子育て支援室」とも連携をとりながら、福祉的な視点からのサポートを継続して行っていきたい。また、関係機関との連携に関しては、昨年度ころから学校外での問題行動が多く発生しているため、警察などの協力も得て、生徒を大きな犯罪被害から事前を守るように体制を整えている。

運動に関しては、酷暑による熱中症対策や授業時数確保、様々な学校行事により「運動的
学校行事」を計画するのは厳しいが、球技大会等を開催すると前向きに取り組み、仲間づくり等の学級経営にも良い影響を与え、運動に対する前向きな気持ちの育成にもつながっている。また、生徒会や生活指導部が主体となって、昼休みにボールの貸し出しを試験的に始めており、昼休みには運動場で元気に遊ぶ姿が見られることから、生徒たちの意欲を引き出す取り組みをしていきたい。

最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上については、学力に課題が多く「学びなおし」など「個に応じた」学習を進めていく必要がある。先述の**最重要目標1 安全・安心な教育の推進**において、特に大きな問題行動を起こす訳では無いが、積極的に教育活動に取り組めない生徒が多い。そうした中で「班活動」などの仲間づくりや「探求学習」など自ら課題を見つけて解決をしていく活動を積み重ねることにより、学校行事などの取り組みには積極的に参加できる生徒は増加してきたので継続していきたい。また、放課後やテスト前、長期休業中の学習会への参加は5月から2月12日までに「のべ1,064名」

の参加があった。その中で、学習に対して「理解することで積極的になった」生徒もいる。しかし、令和8年度からは「重点支援事業」が廃止され、学びコラボレーターの配置がなくなり、学力向上支援（学び）サポーターも大幅に削減された。このことから、学習会の継続が厳しい状態になった。そこで、以前から推進しているが学習者用端末を活用した自学自習（家庭学習）をさらに進めていきたい。

最重要目標3 学びを支える教育環境の充実に関しては、学習者用端末を自宅に忘れたり、充電を忘れたり、授業中に教員の指示に従わない生徒が多い。また、欠席や遅刻の生徒も多いことから、利活用の数値は高くない。生活指導的な面も影響が大きいため、積極的に学習活動に取り組む姿勢の育成も並行して進めていきたい。また、令和7年12月4日（木）に授業力のある中堅教員の研究授業や他にも様々な研修や教員間の連携でICT機器の活用は改善されている。このことから生活指導的な面と教員の授業力向上の面を両輪にして、ICT機器活用を進めていきたい。

「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている」に関しては国語などの授業で活用することが厳したため、「総合」などと横断的な授業計画を考えていきたい。また、学校司書や学校元気アップ支援事業のボランティアと協力して、生徒が興味を持つような書物をPRし、図書室のディスプレイも生徒が本と手に取りやすい工夫をするなど、様々な取り組みなどを行っている。

保護者対象校内アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」において肯定的回答率を毎年増加させることができなかったことについては、前期（7月実施）の校内アンケートでは**86%**と目標達成できていた。しかし、教員の個人端末使用に制限がかかるなど、ホームページにおいて保護者が興味関心を持つ内容を維持できなくなったことが原因であると思われる。令和8年度は学校保管用デジタルカメラを数台購入し、改善を進めていきたい。

大阪市立東淀中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も、肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。</p> <p>R4: 80%⇒R5: 80%⇒R6: 78%⇒R7: 84% 【達成】 (学年別内訳_1年: 89%、2年: 77%、3年: 84%)</p> <p>○年度末の校内調査における、不登校の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>R4: 10.5%⇒R5: 10.4%⇒R6: 12.1%⇒R7: 14.3% 【未達成】</p> <p>○年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる</p> <p>R4: 33.3%⇒R5: 82%⇒R6: 87.6%⇒R7: 90.6% 【達成】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校は、生徒の健康や安全に配慮している」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度55%より増加させる。</p> <p>R4: 58%⇒R5: 60%⇒R6: 55%⇒R7: 66% 【達成】 (学年別内訳_1年: 67%、2年: 65%、3年: 67%)</p> <p>○年度末の校内生徒アンケートにおいて「将来に向けて進路やよりよい生き方について考える機会が多い」に対して肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。</p> <p>R4: 76%⇒R5: 80%⇒R6: 80%⇒R7: 83% 【達成】 (学年別内訳_1年: 77%、2年: 78%、3年: 95%)</p> <p>○年度末の校内アンケートにおいて「相手の立場を思いやる集団」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度より増加させる。</p> <p>保護者=R4: 24%⇒R5: 23%⇒R6: 21%⇒R7: 28% 【達成】 (学年別内訳_保護者 1年: 32%、2年: 23%、3年: 30%)</p> <p>生徒 =R4: 44%⇒R5: 41%⇒R6: 35%⇒R7: 42% 【達成】 (学年別内訳_生徒 1年: 37%、2年: 42%、3年: 47%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>いじめの認知をアンケートや日々の観察による早期発見、早期解決を図り、いじめを許さない心を育てていく。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>「いじめについて考える日」を設定して、いじめに関する校長講話と学級活動を行い、いじめを許さない学級・学校づくりについて学校全体で再認識する。</p> <p>学期に1回いじめアンケートを実施し早期発見、早期解決を図る。</p> <p>いじめについての全体研修会を年5回以上実施し教職員の共通理解を図り、学年ごとに年3回以上いじめに関する取組を実施する。</p> <p>年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>生徒の情報交換を密に行い、教職員が生徒理解に努め、問題行動や不登校の未然防止をするとともに早期発見を行う。生徒一人ひとりに寄り添った適切な支援を行うことで、問題行動や不登校の早期解決を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>学年は随時、週に1回の校務運営委員会、教職員全体に月1回の生徒の情報交換を行う。生徒一人ひとりの実態を把握し、それぞれに応じた指導・支援をするため、学期に1回の教職員全体でスクリーニング会議を開催し、必要に応じて外部機関と連携する。日々生徒理解に努め、特に1年生において「アセス」を活用するとともに年3回以上教育相談を行う。不登校の生徒において家庭と連携しながら学校に登校できるように支援する。不登校の在籍比率を前年度より減少させ、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>自ら危険を回避するために主体的に行動する態度と安全で安心な社会づくりに貢献する態度を育成するため、区や消防署、地域連携して防災・減災教育を推進する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>「防災・減災カリキュラム」を適宜見直し、年間計画をもとに防災・減災教育を進める。年間2回以上校内で避難訓練を行い、防災意識を高める。区や消防署、地域と連携して防災・減災教育を生徒が主体的に取り組める活動になるよう実施する。</p> <p>年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校は、生徒の健康や安全に配慮している」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度より増加させる。</p>	A
<p>取組内容④【基本的な方向番号2、豊かな心の育成】</p> <p>生徒の勤労観や職業観を育てるため3年間を見据えたキャリア教育の計画を作成し、実践する。</p> <p>経年で職業講話、職場体験、出前授業とつながりを持った取組を行っていくことで将来への具体的な目標を持たせ、自発的な学習意欲と自己肯定感を育てていく。</p>	A

<p>指標</p> <p>キャリアパスポートを活用しながら体系的・系統的にキャリア教育を進めるとともに、企業や団体との連携し、各学年とも年間2時間以上でキャリア教育体験活動を実施して進路選択への意識を高めていく。</p> <p>年度末の校内生徒アンケートにおいて「将来に向けて進路やよりよい生き方について考える機会が多い」に対して肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向番号2、豊かな心の育成】</p> <p>人権教育や道徳教育の推進し、道徳心・社会性の育成を図る。さらに、集団行動訓練や活動を通じて、安全に配慮し、自他の生命の尊厳とともに互いの大切さを認め合い、支え合いながら問題解決できる集団づくりを推進する。</p>	
<p>指標</p> <p>人権教育年間指導計画と道徳教育年間指導計画を作成し、計画的に実行する。命の大切さを自他ともに実感できるような取組を系統的に実施する。各学年で命の大切さを育む授業を年1回以上行う。校内での格差や差別・偏見を生まない環境を整え、学校行事において集団づくりの取り組みを行い、自他の生命と尊厳を互いに尊重し合う態度や自他の人権を守る実践行動につなげることで、年度末の校内アンケートにおいて「相手の立場を思いやる集団」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度より増加させる。</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取り組み内容① 定期的ないじめアンケート、教育相談から生徒の悩みを引き出す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめについて考える日」に校長から全校生徒に講話をした。また、学期に1回の「いじめアンケート」を計画通り実施し、いじめの早期発見、早期解決を図っている。 ・生徒理解の研修をこれまでに3回実施しており、スクリーニング会議を2回行っている。 ・各学年の取り組みも進めている <p>1年：仲間づくりや体育的行事の取り組み、文化発表会での取り組み、校外学習合唱コンクール、百人一首大会、集団生活や対人関係にかかわる臨時集会</p> <p>2年：校外学習、体育的行事の取り組み、文化発表会での取り組み、職場体験合唱コンクール、百人一首大会</p> <p>3年：修学旅行、体育的行事の取り組み、文化発表会での取り組み</p> <p>「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は80%の目標に対し、84%に達した。昨年度よりも6%改善し、1年生が89%であり、課題のあった2年生は77%と1%改善、3年生が84%となっていることから、今年度の中学校での取り組みの成果はみられるため、「B」とする。</p> <p>取り組み内容② 毎週の生活指導打合せを実施、課題のある生徒の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例の校務運営委員会や学年会、職員会議において、生徒の情報交換を行っており、全ての教職員で生徒を見守る体制を構築することができている。 ・1年生は中学校区の3小学校から入学している。また、他校区や他の自治体からも入学しており、例年、200名以上の在籍数となる。新しい学校生活の中での不安などに対し、教育相談を1学期と夏休み直後の2回実施したことで学級担任が生徒理解を深め、問題の早期発見早期措置を実践している。3学期にも実施しており、来年度に向けての見立てなどを個別に相談し、支援する体制を築けている。 ・不登校の在籍比率は1学期までは7.7%であったが、最終的には14.3%と昨年度 	

より増加した（昨年度12.1%）。依然として不登校生徒は多い傾向にあるが、教員や外部機関と連携し、改善がみられる生徒は多い。前年度に比べ、改善が見られた割合は90.6%と高い水準にある（家庭連絡や、面会の発生回数の増加などがあたる）。以上のことから、全体的に改善傾向にあり、「B」とした。

取り組み内容③ 防災訓練の実施、日頃から災害についての意識向上

- ・集会などでグラウンドや体育館で集合する際には、各クラスで整列し、避難経路を通過して移動するようにしており、日ごろから防災に対する意識付けをしている。
- ・1学期には地震、2学期に火災を想定した避難訓練を実施した。消防署とも連携し防災、減災教育を行い、3年生では体験を交えた学習を行った。
- ・校内で危険な行為や事象が起こった場合は、緊急の集会を行い全校生徒へ注意喚起をおこなっている。
- ・「学校は、生徒の健康や安全に配慮している」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合は、66%であり、昨年度（55%）より改善している。このことからこの項目の達成度を「A」とする。

取り組み内容④ 各学年でのキャリア教育

- ・キャリアパスポートを活用している。また各学年での取り組みも進めている。
1年：将来の自分、高校からの出前授業 2年：職場体験（報告発表含む）
3年：高校体験授業、進路学習、探究学習
- 「将来に向けて進路やよりよい生き方について考える機会が多い」に対して肯定的に回答する生徒の割合は83%であり、増加傾向にある。1年生が77%、2年生が78%、3年生95%と学年が上がるにつれ増加し、同一学年としても改善されている。これは3年間を見通した計画の結果だと考えられる。この項目の達成状況を「A」とする。

取り組み内容⑤ いじめ学習、性教育、班活動の活性化、各種発表会

- ・1年生では今年度は一泊移住を実施しなかったため、仲間づくりの活動や校外学習を行った。2年生は校外学習、3年生では修学旅行を実施し、集団づくりの取り組みを行っている。
- ・各学年で班活動を取り入れており、自己の責任や、協調性を育てている。
- ・3年生で命の大切さを育む講話を講師の方を招いて実施した。2年生で性に関する教育をおこなった。
- ・全学年で福祉学習に取り組み、自他の生命と尊厳を互いに尊重し合う態度や自他の人権を守る実践行動を学んだ。
- ・2年生は職場体験、3年生は探究学習をおこない、それぞれで生徒が生徒へ自分の考えや思いを発表する場があった。周囲は仲間の発表に耳を傾けていた。
- ・「相手の立場を思いやる集団」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合は昨年度の35%から42%と増加している。しかし、修学旅行などの取り組みを経験した3年生は47%となっており、様々な行事を通して発表会を行っており、他者の意見や思いを尊重する姿勢が構築されていると考えるため今年度は達成状況を「B」とした。

次年度への改善点

○取り組み内容①

- ・1年生での「いじめを決して許さない」重点的な指導

中学校入学直後の 1 年生に対し、いじめの問題に関する学習を行い、いじめの本質や影響について深く理解させる機会を持つ。また、「いじめについて考える日」に全学年でいじめについて考える学習を行うなどの指導計画を整えていく。

・保護者との連携強化

保護者との連絡を密に行い、生徒の様子を共有できる体制を確立する。

○取り組み内容②

・多様な登校・学習方法の模索

ステップ教室利用者に対しての目標設定の見直しや定期的な面談（ヒアリング）を設定する。また I C T 機器を活用したリモート学習の体制を整える。

・「生徒の変化に気づく」意識の強化

心の天気、生活支援カード、教育相談を軸に生徒一人一人の心の変化に敏感に反応できるよう、教員がわずかな生徒の変化に気づける体制を整える。

○取り組み内容③

・防災・避難訓練の実践的実施方法の模索

現行の避難訓練では、○限目の○時から、といったように、あらかじめわかっている状態での訓練となっている。より意識を高めていくためには、教科の授業中に訓練を行うなど、普段に近い状況下で実施することで、非常時にも適切な対応が可能になると考える。

○取り組み内容④

・アウトプットの場の設定

自分が興味を持ったテーマについて学びを深める探究学習や、職業調べ・職場体験の実践報告などの発表の場を設けることで、新たな気づきを共有したり、自らのキャリアに対して興味を持つ機会を増やしていく。

○取り組み内容⑤

・「他者を尊重する心を育む」班活動の実践・活性化

各学年が実践している班活動を、より充実したものにするために、情報を共有し、その方策などを練っていく。相手の声に耳を傾ける姿勢づくりや、他者を思いやる心を育むなど多岐にわたる成果が予測される。

・行事において「生徒の自主性」を育む

生徒が主体的に行事に関わり運営できるような体制を準備し、取り組ませる。生徒が主体となることで、生徒会や各種専門委員会、学年・学級活動や部活動をより活発にしていく。

・学校全体での総合・特活の体制づくり

性教育や人権学習、平和学習などが各学年の先生方の力によるところが大きくなっている。学校全体で学習体系の基盤を作り、経年で学びが深まるような体制を整えていく。

大阪市立東淀中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標</p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を38%以上にする。</p> <p>R4: 33%⇒R5: 37%⇒R6: 38%⇒R7: 49% 【達成】 (学年別内訳_1年: 43%、2年: 51%、3年: 52%)</p> <p>○中学校チャレンジテストにおける、国語と数学の平均点の対府比を、同一学年集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2%向上させる。</p> <p>3年国語=R4: 93%⇒R5: 91%⇒R6: 97%⇒R7: 92% 【達成】 2年国語=R4: 90%⇒R5: 95%⇒R6: 89%⇒R7: 96% 【未達成】 1年国語=R4: 90%⇒R5: 90%⇒R6: 95%⇒R7: 92% 3年数学=R4: 87%⇒R5: 88%⇒R6: 98%⇒R7: 93% 【達成】 2年数学=R4: 93%⇒R5: 100%⇒R6: 89%⇒R7: 82% 【未達成】 1年数学=R4: 93%⇒R5: 88%⇒R6: 85%⇒R7: 94%</p> <p>○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を前年度より増加する。</p> <p>R4: 55%⇒R5: 58%⇒R6: 54%⇒R7: 59% 【達成】 (学年別内訳_1年: 54%、2年: 59%、3年: 63%)</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を前年度以上とする。</p> <p>R4: 38.5⇒R5: 37.9⇒R6: 43.5⇒R7: 41.9 【未達成】</p> <p>○3年生における英検3級を取得している生徒の割合を前年度以上に増加させる。</p> <p>R4: 32.4%⇒R5: 29.6%⇒R6: 35.3⇒R7: 31.6% 【未達成】</p> <p>○年度末の校内生徒アンケートにおいて「自主的・主体的に活動していると感じる」の質問項目に対して肯定的に回答する生徒の割合を前年度より増加させる。</p> <p>R4: 84%⇒R5: 93%⇒R6: 93%⇒R7: 92% 【未達成】 (学年別内訳_1年: 93%、2年: 89%、3年: 94%)</p>	B

<p>○令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の平均を大阪市平均よりも向上させる。</p> <p>男子=R4 : 39.59⇒R5 : 40.79⇒R6 : 40.72⇒R7 : 42.01 【達成】</p> <p>市男=R4 : 40.08⇒R5 : 39.36⇒R6 : 41.10⇒R7 : 41.69</p> <p>女子=R4 : 47.32⇒R5 : 46.99⇒R6 : 44.70⇒R7 : 43.25 【未達成】</p> <p>市女=R4 : 47.00⇒R5 : 43.84⇒R6 : 47.51⇒R7 : 48.14</p>	
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	<p>達成状況</p>
<p>取組内容①【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>習熟度授業など個に応じた学習の推進をするとともに校内で相互参観週間を設け、全教員が研究授業を行うことによって授業改善を意識し、「わかる」「できる」授業を推進し、考える力と応用力を伸ばし自らの課題解決に向けて成長させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>I C T機器の活用や主体的・対話的で深い学びなど課題を持って全教員が必ず研究授業を1回以上行う。授業を伴った校内研修会を実施し授業改善をすることで、年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を38%以上にする。</p>	<p>B</p>
<p>取組内容②【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>各教科、各学年で学力向上に向けた取り組みを進める。各教科において家庭学習課題や長期休業中における学習課題を精選、提供する。学校元気アップ事業や学力向上支援チーム事業を活用して、テスト前学習会や放課後学習会を開催することで学習機会を増やし、自学自習の習慣を身につけさせる。学力向上を進めていく。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>各教科で中学生チャレンジテスト等の結果データを分析し、授業で活用するとともに中学生チャレンジテスト前に対策学習を実施する。定期テスト前学習会の実施、放課後学習会を週2回以上開催する。</p> <p>中学校チャレンジテストにおける国語及び数学の平均点の対府比を、同一学年集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2%向上させる。</p>	<p>B</p>
<p>取組内容③【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>英検を受験することで目的意識を持たせ学ぶ意欲を高める。C-Net 講師と連携した実践的な授業を工夫していくとともに、英会話能力を向上させる。</p> <p>また、R6は教員が配置されず、実施できなかったが、校区3小学校に中学校英語科教員を派遣し、小学校教員と連携を行い、小学校からの英語力の向上を目指す。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>3年生対象に英検を校内で実施し受験する。英語の授業においてC-Net 講師と連携しながら英検取得の学習を行い支援する。また、英検や3年生大阪市英語力調査における4技能を伸ばすことに特化した授業を年間8時間以上行う。実際に英検3級以上を取得できた生徒の割合を昨年度より向上することを目指し、大阪市英語力調査におけるCEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を43.5%以上にする。</p>	<p>B</p>

<p>英語科教員を校区3小学校に派遣し、小学校教員と協働を行いながら、年間100時間程度、小学校での英語授業を行う。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】 体育科においてダンスの授業に力を入れ、外部講師とも連携しながら、リズム感の育成と集団育成に役立てていく。</p>	
<p>指標 1、2年生の体育授業において5時間以上ずつダンス講師の授業を行い、年3回以上の校内実技研修を実施し、授業における成果を発表会の場で表現できるようにする。年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を54%以上にする。</p>	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】 部活動の活性化を図り、体力の向上を目指すとともに、目標や成長の過程を身近なものにすることで、自尊心や達成感を持たせる。 保健体育の授業や体育行事を通じて運動意欲を高め、体力向上を図る。</p>	
<p>指標 新入生に部活動への体験入部期間を設け、適正かつ希望する部活動へ入部できるように行う。部活動指針に従い運営し、プレーヤーズファーストの精神に基づき生徒の意志や成長を最優先に指導することで、年度末の校内生徒アンケートにおいて「自主的・主体的に活動していると感じる」の質問項目に対して肯定的に回答する生徒の割合を93%以上にする。また、体育大会等の体育行事や日々の授業においてスポーツの楽しさと体力向上を意識させ、参加・活動させることで令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の平均を大阪市平均よりも上回らせる。</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【取組内容①について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の活用や主体的・対話的で深い学びなど課題を持って全教員が必ず研究授業を1回以上行うとともに、校内全体での研修会を以下の通り実施し、授業改善に努めることができた。 <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年12月4日（木）：研究授業・研究協議 ・令和7年12月25日（木）：中山芳一氏による非認知能力に関する講演 ・後期学校アンケートの「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して最も肯定的な「思う」の回答した生徒の割合が49%となり、前年度の数値を大きく超えている。これは、各教科、各学年などでの日々の教育活動の実践が数値向上の結果につながったと考えられる。故に、「B」の目標通りに達成したと言える。 <p>【取組内容②について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「中学校チャレンジテストにおける国語及び数学の平均点の対府比を、同一学年集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2%向上させる。」という目標に対して、3年の国語では89%から92%と3%向上し、数学では89%から93%と4%向上した。また、2年の国語では95%から96%と1%向上し、数学では85%から82%と3%減少した。 ・学校元気アップ事業や学力向上支援チーム事業を活用して、テスト前学習会や放課後学 	

習会を開催することができた。

- ・以上のことから、「B」とする。

【取組内容③について】

- ・3年生対象に英検を校内で実施し受験した。
- ・英検や3年生大阪市英語力調査における4技能を伸ばすことに特化した授業などを行ってきた。しかし、3年生における大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合および英検3級を取得している生徒の割合について、ともに目標値を達成することができなかった。
- ・英語の授業において、C-Net講師と連携しながら実践的な授業を行っている。
- ・英語科教員を校区3小学校に派遣し、小学校教員と協働を行いながら、年間100時間程度、小学校での英語授業を行うことができた。その結果として、大阪市小学校学力経年調査の結果において、大阪市の平均値より高い結果を残した小学校もあった。
- ・以上のことから、「B」とする。

【取組内容④について】

- ・1、2年生の体育授業において5時間以上ずつダンス講師の授業を実施することができた。また、授業における成果を発表会の場で表現できるようにした。
- ・「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の質問項目に対して最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合は、前期学校アンケートでは54%、後期学校アンケートでは59%と向上した。10月実施の体育大会での取り組みやさまざまな体育的行事などの取り組みから、生徒一人ひとりのスポーツの楽しさや体力の向上に対する意識は向上し、改善していると考えられる。
- ・以上のことから、「B」とする。

【取組内容⑤について】

- ・後期学校アンケートの「自主的・主体的に活動していると感じる」の質問に対して肯定的に回答する生徒の割合は92%となり、目標値である93%より下回る結果となった。しかし、前期学校アンケートにおいては91%であり、少しずつではあるが改善傾向が見受けられる。
- ・「令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の平均を大阪市平均よりも向上させる」項目に関して、結果は以下の通りである。

・令和7年度	大阪市平均	男子 41.69	女子 48.14
	本校平均	男子 42.01	女子 43.25
- ・以上のことから、「B」とする。

次年度への改善点

- ・目標達成のために、日々取り組みを行っているが、昨年度より数値が向上した項目もあれば、目標数値を達成することができない項目もあった。令和8年度も、今年度同様に、目標達成のために、日々の指導を着実に進めていく。

【取組内容①について】

- ・引き続き、校内での研究授業、授業を伴った校内研修会を実施していきたい。「わかる」「できる」授業を推進するために、授業改善を意識し、教員一人ひとりの授業力をさら

に向上していくよう努めていく。

- ・生徒一人ひとりが考える力と応用力を伸ばし自らの課題解決に向けて成長できるように、学校全体として生徒一人ひとりの学力向上に向けた取り組み等をより一層実践していきたい。
- ・後期学校アンケートでの「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して最も肯定的な「思う」の回答が目標値を超えていたが、学年間での数値の差が大きいことも現状として挙げられる。日々の授業や取り組み等を見直し、さらなる数値向上に向けて努力していきたい。

【取組内容②について】

- ・各教科、各学年等で学力向上に向けた取り組みを推進しているが、全市共通テストや定期テスト等を解析し課題を明確にすることで家庭学習課題や長期休業中の課題の充実等を図り、自学自習の習慣を常態化していくことで生徒一人ひとりの学力向上につなげていく。
- ・学校元気アップ事業や学力向上支援チーム事業等と連携を図りながら、生徒一人ひとりの学力向上に向けた取り組みをさらに行っていききたい。

【取組内容③について】

- ・英検を受験することで目的意識を持たせるとともに、英語に対する興味関心や学ぶ意欲を高めていく。
- ・今年度、3年生における英検3級を取得している生徒の割合や大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する3年生の割合（4技能）が目標値を達成することができなかった。引き続き、英語の授業等において、C-Net講師と連携しながら実践的な授業を行うとともに、英検や3年生大阪市英語力調査における4技能を伸ばすことに特化した授業を積極的に実践していく。

【取組内容④について】

- ・体育大会等の体育行事や日々の授業において、生徒一人ひとりがスポーツの楽しさなど運動意欲を高め、体力向上を意識することができるようにさらに創意工夫を行い、実践していく。

【取組内容⑤について】

- ・後期学校アンケートの「自主的・主体的に活動していると感じる」の質問に対して肯定的に回答する生徒の割合は、1年が93%、2年が89%、3年が94%であり、学年間でも数値の差がある。目標値に達成できるよう、日々の教育活動を見直すとともに、生徒一人ひとりが自主的・主体的に活動できるように学校全体としてさまざまな取り組みを積極的に行っていききたい。
- ・今後も引き続きプレーヤーズファーストの精神に基づき生徒の意志や成長を最優先に指導することで部活動のさらなる活性化を図り、体力の向上につなげていく。

最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上 【各教科:誰一人取り残さない学力の向上】

年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】	
【 教科:国語科 誰一人取り残さない学力の向上 】 教科主任名:阪本 雅	
取組内容	
・授業の中で定期的に小テストを行い、知識の定着を図る。 ・毎授業の振り返りを行い、生徒の理解度や学び方を把握する。	
指標	
・定期テストにおける漢字の得点率を30%以上にする。 ・3教科(国・数・英)アンケートで国語の授業がわかるという質問に肯定的な回答が50%以上にする。	中間評価
進捗状況	A
・定期テストにおける漢字の得点率 1年44% 2年52% 3年61% ・アンケートの結果「分かる」という質問に肯定的な回答が全学年合わせて83%	
下半期に向けて	
現時点では指標にしている数値を満たしているので継続して小テストや振り返りを取り組んでいく。	
達成状況	最終評価
・Teams を活用したプリントと動画の共有は計画通り実施できている。それに加え授業中教室前方のモニターに制作動画を流しておくことで生徒のつまづきを減少させて個別の指導時間を確保できている。後期の授業アンケートにおいても「学習内容の習得」と「個に応じた支援」では校内平均以上の値を示している。 ・canva のスライド機能を用いた毎時間の振り返りに加え、単元終了毎の制作レポートや鑑賞アンケートを Forms を用いて実施した。生徒の意見をまとめてフィードバックする際に大変効果的であった。 ・デジタルポートフォリオでの記録は、毎時間生徒の学びを見取るのに効果的ではあるが、入力側にも授業者側にも現時点では負担が大きい。	B
来年度に向けて	
・ICT を美術の授業内に取り入れることは、情報収集、発表、記録面では大変効果的である。ただ限られた授業内で振り返りの時間を確保するために入力システムを簡略化しスムーズに操作できるように再構築する必要がある。また共同編集機能などは干渉の際には非常に有効に働いたが、AI 機能での意見の分類は便利さ故に生徒の学ぶ機会を奪うことにもなりかねない。ある一定 ICT 活用の素地は整ったので、これからは本格的に効果的な ICT 活用を模索していきたい。	
年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】	
【 教科:社会科 誰一人取り残さない学力の向上 】 教科主任名:古賀翔揮	
取組内容	
①定期テストにおける知識・技能の得点率を50%以上を達成すべく、定期的に小テストを実施し、基礎知識の定着を図る。	

<p>②授業内でも提出日の周知を徹底するとともに、個別にも声掛けをする。 ③生徒の興味関心を高めたり、多様な学びを保証したりするため、様々な活動を取り入れる。</p>	
<p>指標</p> <p>①定期テストにおける知識・技能の得点率を50%以上にする。 ②全生徒の課題の提出率平均を80%以上にする。 ③毎回の授業でペア・グループワーク、ICTの利用、問題解決的な課題への取り組みのいずれかを必ず実施する。</p>	
<p>進捗状況</p> <p>定期テストにおける知識・技能の得点率は1学期の中間テスト及び期末テストにおいて1年生が60.6%と54%、2年生は64.1%と62.5%、3年生では72%と71.8%であり、どの学年においてもいずれのテストで50%を上回る結果となった。しかし、いずれの学年も期末テストでは中間テストから得点率が下がる結果となった。また知識・技能の習得をめざし実施している小テストに関しても同様の傾向がみられ、2年生と3年生では中間までの実施分から2点ほど下がる結果となった。</p> <p>また、提出物に関しても1年生は59人、2年生65人、3年生では30人と提出率80%を下回る結果となった。</p> <p>多様な学びの実践についてはいずれの学年も各授業で取り組んでいるがその内容に偏りが生じており、特に生徒のICTの利活用においては各単元につき1回程度にとどまっている。</p> <p>下半期に向けて</p> <p>下半期では単元ごとの小テストを実施するとともに、提出物に関しても、出していない生徒には個別に声をかけ、課題と小テストによる基礎知識の習得をはかる。また生徒の多様な学びを保障するため上半期では積極的にICTを利用したまなびの実践を行う。</p>	<p>中間評価</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">C</p>
<p>達成状況</p> <p>指標①について 定期テストにおける知識・技能の得点率に関しては1年間通して、3学年いずれも50%を超えた。</p> <p>指標②について 提出物に関しては個別の声掛けや掲示、提出の1週間前から定期的に全体連絡をおこなったが1年生は101人、2年生では71人、3年生では56人が提出率80%を下回る結果となった。</p> <p>指標③について 多様な学びの実践に関してはペアワークやグループワーク、問題解決的な学習などいずれの学年も各授業で取り組んでおり、前期の課題であったICTの利用に関しても少しずつではあるが実践できている。</p> <p>来年度に向けて</p> <p>基礎知識の定着を図る上では提出物の提出率を上げていくことが必要あると考える。今年度に関しては個別の声掛けなどをおこなったが課題に取り組ませることができなかった。そこで、来年度は授業内容を充実させることで社会科への興味関心を抱かせ、家庭学習への意欲を高めていく必要があると考える。</p>	<p>最終評価</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">C</p>

年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】	A
【 教科:数学科 誰一人取り残さない学力の向上 】 教科主任名:荒井 幸輝	
取組内容	
<p>① 数学に対して興味関心を持ってもらうため、日常に直結する内容やグループワークを取り入れた授業を行う。</p> <p>②基礎知識定着を目標として、計算問題演習の頻度を増やし、授業の導入では復習をする。</p> <p>③提出率を上げるために、提出期限1週間以上前からクラスでの声掛け。提出率の悪い生徒など必要生徒は個別の声掛け。 授業中でも復習や余った時間でワークを取り組ませる。</p>	
指標	B
<p>① 授業内アンケートで「数学が好き」の項目で肯定的な回答をする生徒を65%以上にする。</p> <p>②学期末成績通知表における、「知識・技能」における項目で評価 B 以上の生徒を80%以上にする。</p> <p>② 学期末成績通知表における、「関心・意欲・態度」における項目で評価 B 以上の生徒を80%以上にする。</p>	
進捗状況	
<p>①授業内アンケートに関しては、各学年年度末に行い統計を取る。</p> <p>②1学期末成績通知表における、「知識・技能」における項目で評価 B 以上の生徒約79%。</p> <p>③1学期末成績通知表における、「関心・意欲・態度」における項目で評価 B 以上の生徒約88%。 ※数学科で頻繁に情報共有を行い、指標に向けて取り組みを行った。</p>	
下半期に向けて	A
<p>② 既習事項に対してより理解を深めるため、身近な問題を取り扱う。</p> <p>③ 授業内でも演習の時間を増やす。課外での勉強機会を設ける。 (自主学習や質問対応)習熟度別学習授業を行い、個別の指導を行っていく。</p> <p>③提出物未提出者に声掛けを行っていく。</p>	
達成状況	
<p>①既習事項に対してより理解を深めるため、身近な問題を取り扱うことができたが、年度末の授業内アンケートで「数学が好き」の項目で肯定的な回答をする生徒が61.9%と目標を下回る結果となった。</p> <p>②授業内でも演習の時間を増やし、課外での勉強機会を設け、少人数授業を行い、個別の指導も行ったが、年度末成績通知表における、「知識・技能」における項目で評価 B 以上の生徒が75%と目標を下回る結果となった。</p> <p>③提出物未提出者に声掛けを積極的に行った。その結果、年度末成績通知表における、「関心・意欲・態度」における項目で評価 B 以上が88%と目標を上回った。</p>	
来年度に向けて	
<p>ペアワークやグループワークなど対話的な学びを通じ、解決を見出す達成感や数学の楽しさを共有する機会を増やすことで、数学への興味・関心を増やしていきたい。今年</p>	

度は分割授業や入り込み(TT)授業を各学年学期を決め実施することができたが、当初の予定より実施回数が少なかった。来年度は頻度を上げて知識・技能の定着に努めていくために、年間を見通した計画をたてていきたい。	
年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】	B
【 教科:理科 誰一人取り残さない学力の向上 】 教科主任名:大崎 有花	
取組内容	
興味関心を持たせ学ぶ意欲を高める。目的意識をもって観察、実験を行い、科学的な見方、考え方を養う。 チャレンジテストの得点の向上、基礎基本の定着をはかる。	
指標	
大阪市チャレンジテストplus、大阪府チャレンジテストの平均正答率を、1年生は大阪市の平均正答率に対して85%以上、2・3年生については大阪府の平均正答率に対して82%以上をめざす。 【3年チャレンジテスト結果 86.3%達成】 提出課題(ワーク、ノート等)の提出率80%以上をめざす。 【現状 1年 85% 2年 81% 3年 87% 達成】 ICT活用の授業を年間10回以上、実験、観察も年3回以上を目指す。 【現状 ICT活用 全学年 80回以上達成】 【現状 実験・観察 1年5回 2年7回 3年6回 【年間回数達成】 学期に1回以上の小テストをおこなう。1年3回 2年4回 3年3回 【全学年達成】	
進捗状況	中間評価
2年のチャレンジテスト・1年のチャレンジテストplusはまだ、実施されていないが、その他の結果は達成されている。	B
下半期に向けて 1年チャレンジテストplus、2年チャレンジテストの対策問題をおこない、目標達成できるようにする。	
達成状況 目標はすべて達成できた。	最終評価
来年度に向けて 興味・関心を持たせ学ぶ意欲を高め、基礎基本の定着、チャレンジテストの得点の向上をはかりたい。	A
年度目標	
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】	達成状況
【 教科:音楽科 誰一人取り残さない学力の向上 】 教科主任名:飯田祥子	
取組内容	
・合唱の取り組みの際、合唱・伴奏のみ・パート別音源を一人一台端末で配布し、生徒が自分のタイミングで情報を得られる環境を作る。 ・毎時間の自己評価シートを実施し、生徒の現状把握と個別への声掛けを行う。 ・習熟度別授業を行い、生徒一人ひとりの能力に応じた指導を行う。	
指標	
・年度末の授業アンケートにおいて、「学習内容の習得」に関する項目の肯定的な割合	

<p>を70%以上にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の授業アンケートにおいて、「個の状況に応じた支援」に関する項目の肯定的な割合を70%以上にする。 ・アルトリコーダーの実技テストにおいて、C(出来ていない)評価の割合を20%以下にする。 	
<p>進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標として記した取り組み内容に関しては全て、計画通り実施できている。2学期までの合唱の取り組みにおける音源配布は3年生の合唱コンクールや文化発表会に向けて実施した。毎時間の自己評価シートは全学年で行うことが出来ている。その中で浮かび上がったアルトリコーダーに関する苦手意識を低減するため、授業の中で教室前方のモニターにデジタル教科書を映し、運指動画を流すことで生徒のつまづきを減少させ、個別の指導時間も確保できている。授業アンケートにおいても「学習内容の習得」と「個に応じた支援」では目標としている70%以上を達成出来ている。 	<p>中間評価</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">A</p>
<p>下半期に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生のアルトリコーダーでは、習熟度別に分けて授業を行い2学期の実技テストではB評価以上が増えている。3年生においてもパート別少人数で授業を行い、個別への声掛けが充実し、技術向上への時間短縮に繋げることが出来た。1年生も3学期に少人数で授業を行う予定であり、1・2年生の3学期実技テストでC評価の割合を20%以下にできるよう引き続き少人数に分けた授業を積極的に行いたい。 	
<p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標として記した取り組み内容に関しては全て、計画通り実施できている。3学期までの合唱の取り組みにおける音源配布を全学年で実施することが出来た。毎時間の自己評価シートも全学年で行うことが出来ており、生徒の意見をフィードバックすることに大変効果的であった。アルトリコーダーに関しては授業の中で教室前方のモニターにデジタル教科書を映し、運指動画を流すことで生徒のつまづきを減少させC評価の割合を減少させることが出来た。さらに全学年において習熟別の実技指導を行うことで個別の指導時間も大幅に確保することができた。授業アンケートにおいても「学習内容の習得」と「個に応じた支援」では目標としている70%以上を達成することが出来た。また、アルトリコーダーの実技テストにおいて、C(出来ていない)評価の割合を20%以下にすることが出来た。 	<p>最終評価</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">A</p>
<p>来年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度はアルトリコーダーの実技指導において、全学年で習熟度別に分けて授業を行い実技テストではB評価以上が大幅に増えた。しかし、長期欠席者の人数が増加傾向にある中で授業欠席者においても一人一台端末での実技テストが行えるように工夫が必要と考える。合唱の取り組みでは全学年ともパート別少人数での授業を行い、個別への声掛けが充実し、技術向上への時間短縮に繋げることが出来た。来年度は更に充実した合唱が出来るよう、生徒が主体的に取り組めるよう準備をしていきたい。週一時間という少ない授業時間の中で様々なジャンルの授業をいかに充実させて取り組むことが出来るかを継続して研究していくことで実技だけでなく鑑賞授業においても理解度を向上させることが出来るかと考える。 	
<p>年度目標</p>	<p>達成状況</p>
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p>	
<p>【 教科:美術科 誰一人取り残さない学力の向上 】 教科主任名:似内 達吉</p>	

<p>取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作手順や技法の動画をモニターで投影したり、一人一台端末で配布し、生徒が自分のタイミングで情報を得られる環境を作る。 ・毎時間の自己評価シートと単元終わりの制作レポートを実施し、生徒の現状把握と個別への声掛けを行う。 ・デジタルポートフォリオを Canva 上で作成し、生徒自身が学びのつながりを振り返ることのできる環境を作る。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに作成した授業プリントや制作動画を、マイ単元 Teams で共有する。 ・自己評価シートでの振り返りを毎時間、制作レポートでの振り返りを毎単元実施する。 ・年間を通じてデジタルポートフォリオに制作工程の写真や感想などをまとめさせる。 	
<p>進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Teams を活用したプリントと動画の共有は計画通り実施できている。それに加え授業中教室前方のモニターに制作動画を流しておくことで生徒のつまづきを減少させて個別の指導時間を確保できている。授業アンケートにおいても「学習内容の習得」と「個に応じた支援」では行内平均以上の値を示している。 ・canva のスライド機能を用いた毎時間の振り返りに加え、単元終了毎の制作レポートや鑑賞アンケートを Forms を用いて実施した。全体の傾向や偏りを可視化することができ、授業の見直しや指導の改善に大きく役立っている。 ・デジタルポートフォリオでの記録は、発送構想段階から調べ学習の内容をまとめたり、制作過程の写真を振り返りの際に利用できるため有効であるといえる。 <p>下半期に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器を持ちいた感想や振り返りの記述は便利な面もあるが、生徒側の煩雑さと定着率に課題がある。適切な場面でデジタルとアナログを使い分けより効果的な場面での使用を心掛けたい。 ・デジタルポートフォリオでの記録は引き続き行い、年度のまとめなどの際に 1 年間の学びを振り返る際に効果的に活用したい。 	<p>中間評価</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>
<p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Teams を活用したプリントと動画の共有は計画通り実施できている。それに加え授業中教室前方のモニターに制作動画を流しておくことで生徒のつまづきを減少させて個別の指導時間を確保できている。後期の授業アンケートにおいても「学習内容の習得」と「個に応じた支援」では校内平均以上の値を示している。 ・canva のスライド機能を用いた毎時間の振り返りに加え、単元終了毎の制作レポートや鑑賞アンケートを Forms を用いて実施した。生徒の意見をまとめてフィードバックする際に大変効果的であった。 ・デジタルポートフォリオでの記録は、毎時間生徒の学びを見取るのに効果的ではあるが、入力側にも授業者側にも現時点では負担が大きい。 <p>来年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT を美術の授業内に取り入れることは、情報収集、発表、記録面では大変効果的である。ただ限られた授業内で振り返りの時間を確保するために入力システムを簡略化しスムーズに操作できるように再構築する必要がある。また共同編集機能などは干渉の際には非常に有効に働いたが、AI 機能での意見の分類は便利さ故に生徒の学ぶ機会を奪うことにもなりかねない。ある一定 ICT 活用の素地は整ったので、これからは本格的に 	<p>最終評価</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>

効果的な ICT 活用を模索していきたい。	
年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】	
【 教科:技術家庭科 誰一人取り残さない学力の向上 】 教科主任名:東 和輝	
取組内容	
① 自主的に作業しようとする姿勢を育むために、2種類以上の作業方法を提案し作業工程表を作成して個人のペースや表現力に応じて選択できるようにする。 ②製作中の部品加工や組み立てなどの段階で確認作業をグループワークで定期的に行い、自主的・主体的に話し合う活動を取り入れる。	
指標	
生徒(長期欠席者を除く)の作品完成率を全体の80%以上にする。 授業内で生徒アンケートを行い「自主的・主体的に活動していると感じる」の質問項目に対して「はい」に回答する生徒の割合を80%以上にする。	
進捗状況	中間評価
現時点で授業内の生徒アンケートはまだ実施しておらず、作品も取り組み中なため、これまでの取組内容・方策等について振り返る。自主的に作業し、2種類以上の作業方法を提案し作業工程表を作成して個人のペースや表現力に応じて選択できるようにしている。自主的・主体的に話し合う活動を取り入れるため、製作中の部品加工や組み立てなどの段階で確認作業をグループワークで定期的に行っている。全体として計画したことができてきていると考える。後半も引き続き計画通りに進めたい。	A
下半期に向けて	
1月までに全学年全クラス授業内で生徒アンケートを実施予定である。また作品の完成に向け、欠席が多かった生徒を中心に補習を行っていく。下半期も引き続き計画通りに進めたい。	
達成状況	最終評価
授業内で生徒アンケートを行い「自主的・主体的に活動していると感じる」の質問項目に対して「はい」に回答する生徒の割合は94%で目標の80%以上を達成することができた。 各学年で生徒(長期欠席者を除く)の作品完成率は全体の92%で目標の80%以上にする事ができた。	A
来年度に向けて	
達成の要因として2種類以上の作業方法を提案し作業工程表を作成したことで、自ら進んで授業に参加する姿が見られ自主的に作業しようとする姿勢を育むことができた。また製作中に確認作業をグループワークで行ったことで、自分の間違いに気づいたりグループで教え合い助け合う姿が見られ自主的・主体的に話し合う活動ができ、取り組みを定期的に行ったことで間違いが減り作品の完成度も上げることができたので来年度も引き続き取り組みを行い指標の向上を目指したい。	
年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】	
【 教科:保健体育科 誰一人取り残さない学力の向上 】 教科主任名:田中 靖之	

取組内容	
①体育の毎授業でランニング、体操、補強運動を徹底して行う。 ②ICTを使用して授業を円滑に行う。特に保健の授業ではICTを積極的に使用する。	
指標	
全国体力テストの全ての項目で大阪市の平均を上回る。 ②保健と体育の授業において各学年で10回以上使用する。	
進捗状況	中間評価
<p>取り組み内容①では全学年でランニング、体操、補強運動を行っている。45分授業では体操と補強運動のみにして種目の活動時間の確保している。全国体力テストの全ての項目で大阪市の平均を上回っているかを確認して、どの項目が高いか低いかを評価していく予定である。</p> <p>取り組み内容②では各学年でICTを10回以上使用できるペースで授業が進んでいる。特に保健の授業ではICTを利用できている。</p>	B
<p>下半期に向けて</p> <p>取り組み内容①では大阪市の平均と比べて評価して、来年度に向けて改善点を探していく。</p> <p>取り組み内容②では3学期も保健と体育の授業でICTを利用して生徒の知識理解を深めていく。</p>	
達成状況	最終評価
<p>指標①「全国体力テストの全ての項目で大阪市の平均を上回る」の項目では男子は長座体前屈、50m走、ハンドボール投げが大阪市の平均は下回った。体力テストの合計点では大阪市の平均を上回る結果だった。女子は握力以外の項目で下回っている。</p> <p>指標②「保健と体育の授業において各学年でICTを10回以上使用する」の項目では全学年で実施できている。</p>	B
<p>来年度に向けて</p> <p>指標①に関して男子は柔軟性、瞬発力、巧緻性の力を上げる必要がある。特に週3回あるラジオ体操、補強運動に力を入れる必要がある。また巧緻性を上げるために球技の中でもボールを投げる動作の練習を行う機会を増やすべきだ。女子は活動量を増やし全体的に体力の向上を図る必要がある。</p> <p>指標②に関しては全学年でICTの利用を行えているので来年度も継続して予定である。</p>	
年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】	
【 教科:英語科 誰一人取り残さない学力の向上 】 教科主任名:大室 美香	
取組内容	
<p>英検を受験することで目的意識を持たせ学ぶ意欲を高める。C-NET 講師と連携した実践的な授業を工夫していくとともに、英会話能力を向上させる。</p> <p>校区3小学校に教員を派遣し、小学校からの英語力の向上を目指す。</p> <p>英単語コンテストを年2回以上行い、基礎基本の定着をはかる。</p>	
指標	
3年生対象に英検を校内で実施し受験する。英語の授業においてC-NET 講師と連携	

<p>しながら英検取得の学習を行い支援する。また、英検や3年生大阪市英語力調査における4技能を伸ばすことに特化した授業を年間8時間以上行う。実際に英検3級以上を取得できた生徒の割合を30%以上に、また大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を39%以上にする。校区3小学校に教員を派遣し、小学校からの英語力の向上を目指す。英単語コンテストの最終平均値10%アップを目指す。</p>	
<p>進捗状況</p> <p>C-NETと連携した授業を行い、英検と大阪市英語力調査に臨んだ。結果待ちである。校区3小学校に教員を派遣し、中学校に向けての英語力向上に努めている。英単語コンテストも各学年とも行っている。</p> <p>下半期に向けて</p> <p>取組内容を引き続き実施していく。</p>	<p>中間評価</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>
<p>達成状況</p> <p>C-NETと連携した授業を行い、英検と大阪市英語力調査に臨んだ。結果は英検に関しては3級以上を取得できた生徒は全体の31.6%、大阪市英語力調査においてはCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒は全体の41.9%であり、目標を達成できた。</p> <p>また校区3小学校に教員を派遣し、中学校に向けて小学校からの英語力向上に努めた。大阪市小学校学力経年調査の結果において、大阪市の平均値より、高い結果を残した小学校もあった。</p> <p>英単語コンテストも各学年とも行い、最終平均値も初回から10%以上アップした。</p> <p>来年度に向けて</p> <p>学力が2極化しているため、低学力の生徒のボトムアップを図る取り組みを行う必要がある。</p>	<p>最終評価</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">A</p>

大阪市立東淀中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標</p> <p>○授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が（ただし、学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）、年間授業日の 50%以上にする。 R6 : 3.7% ⇒ R7 : 12.6% (1月末時点) 【未達成】</p> <p>○年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を前年度より増加にする。 2 月末時点 82%、8 日取得は 86% 【達成見込み】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○年度末の生徒アンケートでの「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている。」の項目についての肯定的に回答する生徒の割合を前年度よりも向上させる。 R4 : 27%⇒R5 : 27%⇒R6 : 28%⇒R7 : 27% 【未達成】 (学年別内訳_1 年 : 24%、2 年 : 24%、3 年 : 35%)</p> <p>○年度末の校内生徒アンケートにおいて「授業や学級活動などで、パソコン・プロジェクターなどの ICT 機器を積極的に利用している」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を前年度よりも向上させる。 R3 : 44%⇒R4 : 49%⇒R5 : 54%⇒R6 : 51%⇒R7 : 54% 【達成】 (学年別内訳_1 年 : 36%、2 年 : 56%、3 年 : 70%)</p> <p>○令和 7 年度末の保護者アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」に対して肯定的に回答する割合を前年度よりも向上させる。 R4 : 75%⇒R5 : 83%⇒R6 : 84%⇒R7 : 80% (前期は 86%) 【未達成】 (学年別内訳_1 年 : 72%、2 年 : 86%、3 年 : 83%)</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向番号6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 ICT機器を効果的に利用して、教育の質の向上を目指す。また、デジタル教材の活用で個に応じた学習と主体的な学びの育成を推進する。一人一台端末の使用により生徒の心の状態や日々の状態を可視化することで、いじめや不登校などの未然防止・早期発見につなげる。</p> <p>指標 授業でICT機器の利用を進めることができるように環境を整え、授業でICT機器の活用を行う。毎日の朝学活・終学活において、一人一台端末を活用して、「心の天気」を入力させ、定期的にいじめアンケート等も入力させることで情報を共有し、生徒理解を深める。デジタル教材を活用した朝学活を週2回以上実施する。</p>	C
<p>取組内容②【基本的な方向番号7、人材の確保・しなやかな組織づくり】 働き方改革を推進し、教員の長時間勤務の解消をしながら、生徒一人ひとりに対して向き合う時間を確保し、教員が健康的でかつ活気ある職場環境を目指す。</p> <p>指標 毎週水曜日をゆとりの日と設定し、校内月中行事に記載する。実施日には、管理職よりゆとりの日を宣言し連絡黒板に明記する。ゆとりの日においては、原則生徒対応・生活指導対応以外は午後7時までの退勤とする。 これまで実施していた長期休業中の学校閉庁日の設定を継続して実施することで有給休暇の取得を促し、年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を84%以上にする。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向番号8、生涯学習の支援】 生徒の読書環境を充実させることで読書を促し、読解力を高める。 生徒による文化委員会の活動を中心に、図書への意識を高め、図書室利用の活性化を図る。図書室の利用を通じて多様な知識を身に付けさせるとともに、広い視野で物事を考える力を養う。</p> <p>指標 今年度内に図書室や学校図書等の活用する方法を議論し、取組を検討し実施する。 定期的に行う文化委員会の活動で図書室利用を促進する方法を議論して取り組む。毎月1回図書館だよりを発行し、図書への意識を高める。 年に1回リサイクル本フェアを実施し、気軽に図書を手に取ることができる機会を設ける。 年度末の生徒アンケートでの「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている。」の項目についての肯定的に回答する生徒の割合を昨年度よりも向上させる。</p>	C
<p>取組内容④【基本的な方向番号9、家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 学校協議会により保護者や地域住民など学校関係者の意向を反映し、学校運営を行う。学校の情報を広く発信する。学校元気アップ地域本部事業を活用してボランティアによる学校支援を行う。これらの取り組みによって開かれた学校づくりを推進する。</p>	B

指標

学校協議会において運営の計画の策定に意向を反映させる。

学校ホームページにて積極的に情報を発信して年間閲覧件数を 60,000 件以上にすることで、年度末の保護者アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を昨年度よりも向上させる。学校元気アップ地域本部事業を活用して週 2 回の放課後学習会、テスト前学習会、週 1 回の図書室において地域ボランティアを配置することで自主学習支援、図書室の活性化を図る。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取り組み内容①について

各学年において、デジタル機器を活用した朝学活を行っている。しかし、中期に続き定着はなく、昨年度に比べると大きく進歩はしたものの、来年度に向けて今後は定着を目標に進めていく必要がある。よって、進捗状況は「C」とした。

取り組み内容②について

働き方改革の推進については、中期から引き続き行事の見直しを行うなど来年に向けて議論している。今年度は昨年度と変わらない行事や校時で運営を行ってきた。課題として、適切な行事の時期や不要な部分の縮小について議論・検討し、決定した結果を来年度に反映・実践することが重要である。学校としては、働き方改革に向けて学校全体として議論ができていたが、生徒にとって執り行いやすい時期の選定も同時に進めていきたい。また、教員の年休取得状況については、現状 2 月末までに 10 日分を取得している割合が全体の 82% であり、これは昨年度よりも 1 か月ほど早い昨年度の 1 月と比較しても、およそ 20% 上回っている。そのため、結果年度末にはおおむね達成していると考えられるため、おおむね達成できる見通し、進捗状況を「B」と判断した。

取り組み内容③について

今年度の文化委員会の活動を振り返ると、図書室利用を促進する方法を議論して取り組んでくれた。毎月 1 回図書館だよりの発行、年に 1 回のリサイクル本フェアの計画文化委員会の取り組みなどを通して、図書への意識を高めることができたと考えている。しかし、年度末の生徒アンケートでの「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている。」の項目については中期時には 28% から 2% 向上し、30% となった結果も最終的に、27% となり、予想していた値よりも数値が伸びず、昨年度の値を 1% 下回った。よって、進捗状況は「C」と判断した。

取り組み内容④について

ホームページの閲覧件数については、現状 3 月時点で 63453 件であった。これ 60000 件という目標値を上回っている。また、保護者アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する保護者の割合が 6% 下回っている。そのほかの学校元気アップ地域本部事業を活用して週 2 回の放課後学習会、テスト前学習会、週 1 回の図書室開館などを継続的に実施できており、自主学習支援、図書室の活性化を図ることができていると考える。よって、進捗状況は「C」と判断した。